

豊橋市表彰

豊橋市表彰は、市政に功勞のあった方または市民福祉の増進に貢献された方を表彰するものです。
※敬称略。年齢は、8月1日現在

問合せ 秘書課 (☎51・2006)

日本とドイツの懸け橋として



豊橋日独協会
【国際交流】

東三河臨海部へのドイツ企業進出を契機に、ドイツ連邦共和国との交流を深めるため、音のかけ橋コンサートによる音楽交流や講演会の開催など数多くの活動を行ってきました。また、ホームステイや語学講座などを通じ、市民同士での国際交流を発展させてきました。これからも日独交流の懸け橋となるよう、さまざまな活動を行っていきます。

スポーツを通じて得られる感動を伝えたい



夏目 輝久 (72歳)
【体育振興】

これまで、オリンピックマラソン日本代表の鈴木亜由子選手をはじめ、多くの陸上競技選手の育成や指導を行ってきました。また、さまざまな大会やイベントの開催・運営に携わるなど、誰もがスポーツに親しめる環境づくりに取り組みました。今後も多くの選手が活躍できるよう指導を続け、スポーツを通じて得られる感動を伝えていきたいです。

誰もが共に暮らせるまちを目指して



市川 明人 (72歳)
【社会福祉】

保護司として、罪を犯した人の社会復帰支援や、犯罪・非行の予防活動に取り組みました。また、今までの経験をもとに豊橋市再犯防止推進計画の策定に携わり、更生保護事業の推進に努めました。これからも再犯防止活動に継続して取り組み、誰も孤立することなく、共に暮らすことのできるまちづくりを進めていきます。

地域の見守り活動の充実へ向けて



掛布 喜代子 (74歳)
【社会福祉】

地域の身近な相談役である民生委員児童委員として、高齢者や障害者、子どもの見守りなどの支援を行ってきました。また、行方不明になった認知症の方を早期に発見する仕組みづくりなど、認知症の方を地域で支えるための環境を整備しました。今後はこれまでの経験を活かし、地域の見守り活動に協力していきます。

豊橋市教育・体育・文化表彰は各分野の振興・発展に貢献された方を表彰するものです。また、豊橋市社会福祉活動顕彰は、社会福祉に貢献された方を顕彰するものです。※敬称略

豊橋市教育表彰

[教育賞]

田部井捷子、荒木光男、藤田保、白井宏治

[教育奨励賞]

つつじが丘ジュニアマーチングバンド

問合せ 教育政策課(☎51・2819)

豊橋市体育表彰

[スポーツ賞]

阿部弘子

[スポーツ奨励賞]

鈴木祥子、鈴木三和子、棚橋大介

問合せ 「スポーツのまち」づくり課
(☎51・2865)

豊橋市文化表彰

[文化振興賞(個人)]

宮城照己、原田ちよ子

[文化振興賞(団体)]

日本民謡研究会豊定会

[文化振興特別賞]

富長覚梁

問合せ 「文化のまち」づくり課
(☎51・2874)

豊橋市社会福祉活動顕彰

[社会福祉大章]

日本舞踊南條流、豊橋手話通訳学習者の会

[社会福祉銀有功章]

豊橋工科高等学校生徒会、日本民謡研究会豊定会、豊橋手話サークル「南の風」、瀬上あき代

[社会福祉銅有功章]

上田和彦、東三河きゅうきゅうくらぶ、とよの会

問合せ 福祉政策課(☎51・2355)

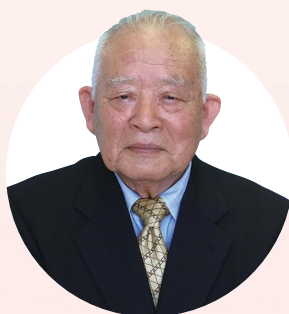
岩屋緑地から自然の大切さを伝えたい



岩屋緑地に親しむ会
【環境保全】

うっそうとしていた岩屋緑地を明る公園として維持するため、20年に渡り間伐や散策路などの整備を行ってきました。また、自然の大切さを伝えるため、地元の小・中学生などを対象に自然と触れあえるイベントを開催し、親しみの持てる緑地づくりに取り組みました。環境保全への関心を高めるため、引き続き地域と共に活動していきます。

豊橋が誇る「豊橋筆」を後世へ



杉浦 良雄 (86歳)
【産業振興】

伝統的工芸品「豊橋筆」の魅力を広く伝えるため、販路を拡大するなどの普及活動に取り組みました。市内の小学校では筆作りを実演する体験講座を開催し、ものづくりのおもしろさを伝える活動なども行ってきました。生産者の高齢化が進む中、豊橋が誇る豊橋筆の伝統を絶やさないよう、後継者の育成に力を入れていきます。

豊橋の産業の発展のために



鈴木 伊能勢 (75歳)
【産業振興】

時代が進む中、現状に満足することなく、常に社会情勢と市場の先を読むことで自動車販売の拡充に努めてきました。また、欧州の視察などを通じて学んだ、一人ひとりの個性が輝きやすい環境づくりに取り組みました。今後は産業分野に留まらず、誰もが胸を熱くするイベントを行政と連携して開催するなど、多方面から豊橋を盛り上げていきます。

農産物の集約で全国有数の産地へ



白井 良始 (71歳)
【産業振興】

キャベツやトマトなどの重点品目を集約して生産し、出荷量を増やすことで、豊橋が全国有数の農業産地になるよう努めました。また、地元の新鮮な農産物を販売する拠点として、あぐりパーク食彩村の設立に携わるなど、地産地消の促進に取り組みました。今後は産地維持のため、行政とJAが連携して行う担い手確保施策に協力していきます。